

みんなで作った「環境体験プログラム」

開成生も十六名が参加

2月1日に円山動物園で「みんなで作った『環境体験プログラム』大集合！」が開催された。ワークショップは、中学生以上が一人から企画を考えて実践まで行うプログラムである。開成生が多く参加し、開成で培った探究心が多く発揮された機会となった。



▲丸山動物園の写真スポット

このプログラムは、藤女子大学と円山動物園が協働主催している。藤女子大学からは15名の学生、計42名が参加した。去年までは、高校生以上が参加対象だったが、今年から中学生以上が参加対象に変更された。学生だけではなく、NPOや法人からも参加者が集まり、幅広い年代での交流場になっていた。今年は、ディンブルアートのNPOや猟師など様々な職業の方の参加も見られた。

12月20日に円山動物園に参加者が集合し、グループ決めや企画決めを行った。実践当日までに集まれる機会は12月20日の一回のみで、グループごとに企画内容やスケジュール立て

を行っていた。LINEを飲みながら、終始和気藹々とした日だった。各グループ予算が1万円。企画準備を行った。

他にない7つのプログラム体験



▲プログラムに参加している様子

このイベントは、ザリガニスープレ、試飲、キーホルダー作り、クイズフリー、ポストカード作り、革製品の工作、塗り絵、ボードゲームの計7つのプログラムが爬虫類・両生類館、エゾシカ・オオカミ館、キリン館で実施された。それぞれ、環境に関わらせたプログラムになっており、全世代の人達が楽しめる内容になっていた。

例えば、キーホルダー作りでは、バリオマスプラスチックに目を向け、地球温暖化により熊の生息地が減少していることを伝える

ていた。予算の関係で、大規模な活動は難しいため、新札幌乳業さんから廃棄牛乳を寄付していただいたグループや豊平川で駆除されて集められたザリガニを寄付していただいたグループなど外部との積極的な交流が多く見られた。

2月1日の企画実施日では、各グループごとに集合時間を決め、プログラム開始の午前10時まで、準備を行った後、笑顔で来園者を迎えていた。（山田寧々）

当日は1372人が来園し、それぞれのプログラムを100名前後が体験した。楽しかったことから、同じプログラムに2回参加していた人も多数見られた。海外の観光客の人達が参加したときには、英語で対応し、参加者・運営者共に笑顔が見られた。

ザリガニスープなど、なじみのないものに興味を持っていた人やまたまた来たから参加した人など、多くの人が楽しんでいる様子だった。参加者からは、「楽しかった、来年もあれば参加したい」「次いつ開催されるんですか」という声が多く挙がり、運営側からは、「想定していたよりも多くの人に楽しんでもらえた」「不安だったが、終わってみて満足している」という声挙げられていた。

校長先生は、作成したキーホルダーを校長室に飾っている。（山田寧々）

開成校新聞

最優秀賞受賞

5年1組中村佳稟さんが2025年9月13日に行われた第三回北海道大会でグランプリ、11月16日第14回国際声優育成コンテスト声優魂本大会で最優秀賞を受賞した。

声優魂とは、声優を目指す中高生を対象とした全国規模のコンテストである。この大会は、声優業界の次世代を担う若い才能の発掘と育成を目的として開催されており、日本最大級の中高校生向け声優コンテストは複数の審査を経て行われる。

5年1組 中村佳稟さん 国際声優コンテスト



受賞したときの様子(HPより引用)

好きを力に 未来へ挑戦

最優秀賞を受賞した中村さんに、大会への思いやこれまでの練習について話を聞いた。中村さんがコンテストに応募したきっかけは、「もともと演技が好きだったこと」と

③ セリフ（フリー演技で）
ねえ、そっちは私たちが、掛け声とかないよね？
強豪校はともオ리지ナルの掛け声とかあるじゃない？
なんか円陣組んでさあ、一致団結！って感じでカッコいいじゃん！
だからさあ、ウチらも掛け声作ろうよあー！
④ ナレーション
この数年で様々なサービスに取り入れられ、大きな注目を集める生成AI。しかし、この新しい技術が広がる一方で、著作権の侵害や、ハルシネーションなどの問題も大きくなっています。生活を豊かにしてくれる先進技術と、正しく適用するガイドラインの両立が求められています。

▲課題になっている実際の原稿の一部

応募者はまず、課題の原稿の朗読や自己PRを提出し、一次・二次審査を通過した参加者のみが次の選考へ進む。

紙面紹介
1面 声優コンテスト
2・3面 科学先端持論
4面 丸山動物園

9期生が卒業して1ヶ月がたち、15期生が入学しました。見えてくる活気が始まり、入学が始まります！新入生も、2年生も、6年生も、新たな学校生活に心が躍りますね！

その後、地方大会や予選を勝ち抜いたファイナリストが決勝大会に進出し、実際のアフレコや演技などを披露して最終審査が行われる。審査では、声の表現力や演技力、キャラクターへの理解などが総合的に評価される。決勝大会は例年、声優や音響プロデューサーなどアニメ・声優業界の専門家が審査員を務める。参加者にとって、直接評価やアドバイスを受けられる貴重な機会となっている。最優秀賞を受賞した中村さんは特に改善点は指摘されなかった。（北條結菜）

している様子を真似してみたり、アフレコをするキャラクターの人格を分析したりしながら、そのキャラクターに合った感情を声にのせて話すことを意識してきたという。また、今回の優勝については「うれしいです。まさか優勝できるとは思っていませんでした」と驚きと喜びを語った。今後について中村さんは、「司会やアナウンサーなどで、場を明るくしたり、声で世界観を作れるような人になりたい」と話しており、声を通して人に影響を与える存在を目指している。（北條結菜）

北海道医療大学へ！

2日間に渡った教授たちによる特別講義

2026年1月13日、14日の2日間にわたり本校の3年生24名は科学先端特論の講話を受けに当別にある北海道医療大学を訪れた。今回のプレ先端科学特論では、遺伝子解析実習がメインにありその他に「DNAの基礎知識」について講話を受けたり「遺伝力カウンセラー」の仕事について講話を受けた。



▲先生方と生徒達の集合写真

今回のプレ先端科学特論は2日間にわたって当別町にある北海道医療大学で行われた。1日目には北海道医療大学の教授である太田亨先生から「DNAの基礎知識」といった講義を受け、2日目には石手東北メディカル・メガバンク機構特命助教・認定遺伝力カウンセラーである吉田明子先生が「遺伝力カウンセラーの仕事って、なに？」といった講義を受けた。太田先生による講義では、遺伝に関することを幅広く取り扱っていたのだが、中学生にでも分かるように噛み砕きながら、わかりやすくスライドと一緒に説明した。

また、吉田先生による講義では遺伝カウンセラーの資格の取り方や仕事について具体的な内容を学んだ。また、遺伝カウンセラーのもとを訪れる人は、なん

昼休みにインタビュー！

昼休憩には食堂が利用でき、大学生気分を味わうことが出来た。また、その時間に先生方へインタビューを行った。

大学は冬休みであつたのに関わらず食堂は大学生であふれていた。そういった雰囲気の中で学食を楽しんだ後、太田先生と吉田先生に対しインタビューを行った。

ある上で絶対に変わらない人が生まれたときから持っている素質という物を明るみにするということが面白く、興味深く思っている。」と話した。遺産をより詳しく見ることが出来

まず、太田先生に遺伝学を学ぶことの面白さについては「人生のうち性格や家族構成など環境が決めることが



▲インタビューを行った際の4SHOT

ある上で絶対に変わらない人が生まれたときから持っている素質という物を明るみにするということが面白く、興味深く思っている。」と話した。遺産をより詳しく見る事が出来るようになるれば、その人の生まれ持った特性例えば身体能力や学力の限界値などを読み取ることが可能になるという。そのことについて「自分の限界値や得意なことが分かっているっていたら将来が限定されてしまう可能性があるため将来に関係のあることなどを明るみにするのはあまり良くないことだと思っている」と話した。

さらに、遺伝学の道に進むきっかけについては「昔、小児科で医者をしていたところ診断もつかないような症状の子どもに出会い、その病気を解明するた



▲食堂で昼ご飯を食べる生徒達

らかの遺伝疾患を煩っている本人自身だけでなく、患者の親族の方なども訪れると言うことも教えて下さった。それに加えて遺伝疾患とは具体的にどのような物があるのかという基本的なことについても講義を行った。

どちらも1時間ほどの短い講義であったのに加え、内容も難しくあったのだが自由に質

自分の細胞を用いた実験

また、今回のプレゼン
端科学特論では講義の
内容を踏まえた「自分
の遺伝子解析実習」が
あり、自分たちの類の
事例の占拠から細胞子



▲実験で用いたピペット

な実験器具を用いたりこの実験を行うことによりって耳垢がカサカサタイプかベタベタタイプか知ることが出来る。

講義の内容によると日本人には一般にカサカサタイプが多くアメリカ人などの欧米人には一般にベタベタタイプが多くなっている。

今回参加した生徒24名（全員日本人）が実験をしたところ24名中3人がバタバタイプ、21名がカサカサタイプであった。このことから、講義の内容を実験を通して理解することが出来た。

疑応答ができるようになってきている雰囲気であつた。

今回参加した大久保おおくほ漣れんさんは「一日中科学に浸っていられるという喜びがあつた。学校の授業よりもゆつくり取り組むことができ、先生の講義の分かりやすさも相まつてより深く理解することが出来た」と話した。

(村重文那)

また、今回のプレ先端科学特論では、前述した実験だけでなく、タマネギを使った実験も行った。具体的にはタマネギを塩と食器用洗剤を用いて細胞分裂をさせた。それによって細胞がより見やすくなるため、ただの実験で終わるのではなく細胞の中の染色体の変化等を見ることが出来た。

今回参加した小林奈生さんは「授業で習ったばかりのことも自分の耳垢を調査・実験することで自分事化できより楽しく学ぶことが出来た」と話した。

（村重文那）

▲
講義をする太田教授

を援助する専門職である。患者のために良い研究を行っている研究者がたくさんいるが、その成果を実際に医療の現場に持っていくと、

患者が傷ついたり患者が置いてけぼりになっ
てしまうなどどうまく
連携をとることが出来

ない現実がある。そこで、できるだけ良い形で患者に医療を提供したいと考えて遺伝力ウンセラーを選んだと話した。

吉田先生によると、
遺伝に興味を持つても
らったり面白いと思つ
てもらうのが、科学生

に、「人生は必ずづまづき後悔するから、好きなことをした方がいい」と話した。好きなことをすることで、つまづいたときに好きなことをしたからと立ち直りやすい。

（村事文那・山田寧々）

今号から新しく「放課後
「Focus-」を開始した。こ
こでは、部活動やユニット
などの放課後活動に焦点を
当てて、継続的に紹介して
いく。

第一弾では情報処理班を紹介する。生徒11名で林詩音^{はやしおん}先生を顧問として活動している。3年・4年のラウンジで行われ、活動日は生徒がやりたい時に自由にやる方式である。情報処理に自信が無くても、興味があれば誰でも気軽に参加できる。

達成した目的は2つ。1つは、同じ趣味を持った人達との交流の場にあること。各々が持つっている知識やスキルを共有することで、情報処理スキルの向上が期待できる。もう1つは、情報処理の面白さを知ってもらいたいのである。

放課後focus! 第一弾 情報処理班

今年度は、情報処理班のホームページの作成を行った。

班長の永井雄士さんは
情報処理班を一言でいうと、
SHI・ONLINE(?)
と語り、今後は情報処理の
スキルを学校全体に還元し
ていきたいと志していた。
情報処理班が持続的に開成
祭でのシステム向上や新規
プロジェクトを推進してい
きたいと語った。

また、副班長の阿部
しょうたろう
祥太郎さんは、生成AI教
室を開催したり、AIに架
空の料理を作らせたりする
など、生徒・顧問共に負担
の少ない活動で面白くして
いきたいと話した。

林先生は「モラルを守りながら活動し、今度生徒会との連携を高めていきたい」と話した。（山田寧々）